

2005 年度経済書講読受講者各位

開講にあたって

2005 年 4 月 19 日

川端 望

担当教員紹介

- ・ 1964 年、仙台に生まれる
- ・ 宮城県仙台向山高校卒 東北大学経済学部卒 東北大学大学院経済学研究科前期課程修了 同後期課程単位取得退学 大阪市立大学経済研究所助手、講師、助教授 東北大学大学院経済学研究科(経済学部)助教授
- ・ 専門：産業発展論
- ・ 担当する基本専門科目：企業論（2006 年度）
- ・ 現在の研究テーマ：東アジア鉄鋼業のダイナミズム
- ・ その他、研究内容については以下を参照
<http://www.econ.tohoku.ac.jp/~kawabata/index.htm>

経済書講読 A と B の関係

- ・ 原則として一体のものとして扱い、授業も連続して行う。
- ・ 事情があって A または B のみを履修する者は申し出ること。

この授業の目的

シラバスに書いたとおり、「語学の講義」ではなく、「調べ、考え、議論するスタイルを学ぶ演習」を実施する。「勉強の仕方」と「議論の仕方」を学ぶと思ってくればよい。

テキスト輪読の進め方

テキストに沿って、以下のサイクルで英文解釈と内容討議を繰り返す。

参加者を班に分けて運営する。

レポート班とコメント班を順序にしたがって担当する。

	予習	授業 t 回目	予習	t+1 回目	予習	t+2 回目
テキストの パート X-1	論点調査	内容討議				
パート X	訳出	訳文提出	英文疑問 点検討	英文解釈・ 論点提示	論点調査	内容討議
パート X+1					訳出	訳文提出

t 回目の予習（訳出）

レポート班は、翻訳の担当割り振り、訳文コピーの手配などが必要。

t 回目授業(訳文提出)

レポート班が、担当部分の全訳を、全員分コピーして提出する。

(t + 1) 回目の予習（英文疑問点検討）

英文解釈上の疑問点（意味のわからないところ、解釈しにくいところ）をコメント班とその他参加者各自が、訳文とテキスト英文を読んで考えてくる。

(t + 1) 回目授業（解釈・論点提示）

担当部分のあらすじを報告班が口頭説明する。英文解釈上の疑問点をコメント班、教員、その他参加者が口頭で提出する。レポート班が答える。解釈をすすめるうちに、経済学上の問題が出てくる。授業の終わりまでに、レポート班とコメント班は、最低ひとつの論点を提出し、用紙に書いた上で口頭報告する。教員は用紙を集めてメモした上で、報告班にわたす。

* 解釈：まずは日本語として意味が通るように訳すこと。さらに進んで、「何のことを言っているのか」「何をいいたいのか」までを含む。わからなければ論点にまわす。

* 論点：意味がわからないところ。著者の意見に疑問があるところ。自分にも意見があるが、ほかの人の意見もききたいところ、など。

(t + 2) 回目の予習（論点調査）

レポート班は、論点について勉強し、回答をまとめる。

* 必要な文献は図書館、学部図書室(経済学部研究棟 4 階)、川端研究室などで利用。

* わからない言葉を辞典・事典で調べる。シラバス参照。

* 調べたいテーマについて、統計書を調べる。論文や本を読む。

* 統計数値をパソコンで加工したり、各論者の主張をまとめたり、自分自身の意見に練り上げたりして、レジュメにまとめる。

(t + 2) 回目（内容討議）

レポート班が、疑問点への解答を報告。口頭でもレジュメ、文書でもよいが、複雑な内容はレジュメ、文書にすることが望ましい。解答を受けて、全員で討論。

* レポート班は、すべての疑問にこたえる義務がある。いくら調べてもわからないこともあるが、調べずに「わからない」はだめ。

* 回答がずさんな場合は、次回に繰り越したり、レポート提出を命じることがある。

翻訳について

- ・できる限り、ワープロ打ちして配布すること。
- ・意味が違ってしまわない程度に、「日本語として読める」ように意識する。
- ・読者の立場に立ってわかりやすい日本語を書くようにつとめること。
- ・難解な場合は、とりあえず直訳すること。
- ・章末注(Reference)は訳さなくてよい。図表やコラムは訳すこと。

テキスト購入の課題について

- ・当初使う部分はコピーして配布する。
- ・各自、購入方法を工夫して購入すること。これも勉強の仕方を学ぶ課題とする。
- ・残部僅少の情報があるので早めに行動すること。
- ・100点満点のうち10点は、テキストを購入できた者にのみ与える。ただし、過半数が購入できなかった場合は5点とする。

辞書について

- ・英和辞典は、各自選択して準備されたい。
- ・経済辞書を必ず1冊手元に置くこと。各自が選択してよいが、『有斐閣経済辞典 第4版』、『岩波現代経済学事典』を勧める。
- ・英和和英のビジネス用語辞典もかなり役に立つので推奨する。

教官との連絡や質問

- ・連絡の中心は電子メールとし、ホームページ掲載と北キャンパス掲示板を併用する。
- ・教員への質問は、随時受け付ける。受付方法は、オフィス・アワーに研究室に来るか、メールを送ること。
- ・メールはできるだけパソコンが望ましい。添付ファイルを送ったり、一般ホームページ参照を指示したりできるため。
- ・オフィス・アワーには、予約なしで研究室に来てよい。4-5月は金曜日の12時から2時までとする。
- ・成績に関する問い合わせには、一切応じない。
- ・連絡先は以下のとおり。

経済学部棟 618号室。

Tel&Fax 022-795-6279(留守電あり)

E-mail kawabata@econ.tohoku.ac.jp

成績評価基準

- ・ 100点満点。60点以上が合格。
- ・ 構成をシラバスから以下のように修正する。
 討論への貢献(班)：30点、討論への貢献(個人)：20点、最終レポート(個人)：40点。テキスト購入：10点
- ・ 学期末に最終レポートを出してもらう。
- ・ 前期の成績を経済書講読Aの成績、後期の成績を経済書講読Bの成績とする。

出欠

- ・ 毎回取る。
- ・ 事前に連絡があった欠席は、合理的な理由である限り成績に影響しない。無断欠席はマイナス10点、報告班の全員欠席や報告放棄(レジュメなしなど)は、班全員にマイナス10点。
- ・ 合理的な欠席の範囲はおおむね以下の通り
 ブロックゼミナール、インゼミ、病気、自らの事故、親しいものの冠婚葬祭、学友会正加盟サークルの対外試合、在留手続き、学友会役員・経済学部ゼミナール協議会役員・寮自治会役員は、大学代表との会見。

留意事項

- ・ レジュメ、レポートを含めて、すべての書類はA4・A3版とする。
- ・ 私語・内職厳禁。
- ・ 携帯電話の音をさせないこと。
- ・ 居眠りについては関知しない。うるさい場合のみ起こす。
- ・ ドリンク類は飲んでもよい。

以上